

第11回全道少年U-10サッカー北北海道大会

準決勝・決勝 戦評

＜準決勝＞ 末広サッカー少年団 VS エスピーダ旭川
2-5 (1-1, 1-1, 延長0-2, 0-1)

この時期の十勝らしい爽やかな青空が広がった大会最終日。

来月にはU-15クラブユース全国大会が行われる帯広の森球技場のAコートで行われた準決勝は、末広サッカー少年団とエスピーダ旭川による、旭川地区同士の対戦となった。



エスピーダのキックオフで始まった前半。開始早々に早くも試合が動く。末広が相手DFラインの裏を狙ってロングパス。これは積極的に飛び出したエスピーダGKがクリアするが、そのボールに反応した末広⑨が左足を迷うことなく振りぬくと、ボールは一直線にゴールネットに突き刺さり、末広が先制点を奪う。出鼻をくじかれた形となったエスピーダだったが、すぐさま反撃を開始する。2分、CKのこぼれ球を④が狙うもゴール上へ。5分、③④からの縦パスを受けた③①が相手DFを巧みにかわして右足



で狙うが、これはクロスバーをかすめる。そして11分、左サイドでボールをキープした②⑨が強引にゴールに向かい、最後は技ありのトゥーキック。これがニアサイドを破り、エスピーダが試合を振り出しに戻し、前半が終了する。

後半、同点ゴールで勢いに乗るエスピーダが、右サイドを攻撃の起点としてリズムをつかむ。多くのチャンスを作るも、末広の集中したディフェンスを前になかなかゴ

ールを奪えない。しかし8分、連続した攻撃が実を結ぶ。相手のペナルティエリアでボールを奪った②⑨が鋭いカットインから冷静に流し込み逆転。エスピーダがこの試合初めてリードを奪う。しかし、末広はワンプレーで同点に追いつく。失点直後のキックオフを後ろに下げると、先制ゴールを奪っている⑨が得意の左足でダイレクトシュート。これがきれいな放物線を描き、最後は相手GKの手をはじきゴールイン。見事なロングシュートで



試合は再びイーブンに。再び流れをつかんだ末広は後半終了間際にも、バイタルエリアにボールを運んだ⑨が左足で狙うが、これはエスピーダGKが見事な反応でファインセーブ。試合は延長戦に突入する。

3分ハーフの短い延長戦だが、ここでエスピーダの見事な攻撃を披露する。前半1分、右サイドから左サイドへ大きく展開すると、エリア外から⑫が強烈なシュート。これは末広GKが必死にストップするも、そのこぼれ球を狙っていた⑬がブッシュ。再び勝ち越しに成功すると、直後にはまたも⑬が見事なドリブルから相手GKとの1対1を制す。そして後半開始早々には、相手DFラインの裏を狙ったロングパスに反応した⑬が流し込み、試合を決定づけた。末広も諦めることなくゴールを目指し続けたが、このまま試合は終了し、エスピーダの決勝進出が決まった。



エスピーダは優れた個人技を生かした攻撃がこの試合でも存分に発揮された。一方、惜しくも敗れはしたが、末広の⑨を中心とした攻撃は相手チームの脅威となり、集中を切らさない粘り強い守備も称賛に値する。決勝戦でプレーする権利をかけた試合らしい、手に汗握る攻防であった。

(文責 十勝少年サッカー連盟 喜多 翼)

<準決勝> 網走ジュニア VS 池田

1-1 PK1-2 (1-1, 0-0, 延長0-0, 0-0)

ここ数年、網走地区で安定した力をつけてきた網走ジュニアと、地元十勝地区勢として唯一ベスト4に残った池田との準決勝。網走ジュニアのキックオフで試合が始まる。

両チームとも準決勝という緊張感のためかやや動きが硬く、なかなかボールがおさまらない。中盤でのボールの奪い合いが続く中、



網走は⑩を中心にゲームを作る。池田もDF陣が踏ん張り、素早い体の寄せで対抗する。4分、網走は⑥がシュートを打つもゴール右へ外れる。6分、池田がGKからのロングボールを⑪→⑩とつなぎ決定機を作るが、網走はGKの好判断でピンチを防ぐ。8分、網走がゴール前の混戦からこぼれ球を②が押し込み先制点を奪う。やや押し込まれる時間が続いた池田であったが、11分、相手ゴール前で⑨がねばり、ボールを奪って同点ゴールを決める。

後半開始早々、網走はFKのチャンスをつかむ。⑩のシュートは枠をとらえたものの池田GKが好セーブで防ぐ。その直後のCKに⑩が頭で合わせるも惜しくもバーを越す。4分、網走⑩のミドルシュートは右ポストに嫌われる。その後も⑩のドリブルからチャンスを作る網走が押し気味で試合を進めるも決定機は作れない。対する池田は、⑩のミドルシュートでゴールを狙うも、同点のまま後半が終了し、試合は延長戦へと突入する。



延長に入っても網走ペースで試合が進む。②、⑨のドリブル突破や⑪のロングシュートで池田ゴールに迫るも、池田は③中心とした粘り強い守備でゴールを許さない。2分、網走は決定機を迎える。右サイドをドリブル突破した⑥がゴール前にセンターリング。



これを走り込んできた⑧がシュートを打つも池田GKが好守で阻む。お互い気持ちの入った激しいプレーが続くも得点が入らず決着はPK戦へ。



思いを込めて臨んだPK戦は、池田が2-1で勝利をつかみ念願の決勝へと進出した。地元大応援団の熱い声援をバックに最後まで粘り強い守備を見せた池田。一方惜しくも敗れた網走ジュニアも、⑩のドリブルから連動した動きで相手守備陣を崩そうとする意図が伝わる今後が楽しみなチームであった。

互いの持ち味が出た、準決勝にふさわしい好ゲームであった。

(文責 十勝少年サッカー連盟 喜多 進)

<決勝> エスピーダ旭川 VS 池田
2-0 (2-0, 0-0)

エスピーダが悲願の初優勝を果たすのか、地元勢として決勝戦に残った池田が、大応援団をバックに予選リーグのリベンジを果たすのか、たいへん興味深い決勝戦となった。試合前からリラックスムードの池田に対し、非常に高い集中力で試合に臨むエスピーダ。青空の下、両チームの応援団はじめ、すでに試合を終えたチームの選手たち、大会関係者と大勢の観客が見守る中試合が始まった。





試合は、エスピーダペースで進んだ。開始早々から③①、②⑧、③②が池田ペナルティエリア内にドリブルで侵入しシュートチャンスをうかがう。池田も粘り強い守備を見せるが、連戦の疲れかやや動きが重い。6分、エスピーダは③②がドリブル突破で池田ゴールへ迫る。池田DFも必死についていくが足をかけてしまいPKを献上する。

このPKをエスピーダ②⑨がしっかりと決め先制点を奪う。主導権を握ったエスピーダは、更に猛攻を仕かける。8分、③①が前線でボールをキープし、2列目から飛び出してきた④③へタイミングの良いパスを出し、④③が落ち着いて決め2点目を奪う。劣勢となった池田だが、⑩のドリブル突破やロングキックで攻撃をしかける。



ハーフタイム。エスピーダベンチからは「もっと大胆に。球際を厳しく。」、池田ベンチからは、「自分らしさを出して。もっとできる。やり切ろう。」との声が出る。



後半開始早々、相手ボールを奪ったエスピーダ③①が抜け出し、GKと1対1になるも、池田GKが好守備で追加点を許さない。8分、エスピーダ②⑨が右サイドを突破しシュートを打つがポストにはじかれる。その後、追加点は奪うことができなかったエスピーダであったが、個々のドリブルを中心に多彩な攻撃で相手ゴールに迫るプレーは迫力があつた。11分、池田にFKのチャンスが訪れたもののゴールには至らない。最後まであきらめることなく、⑩、⑪、③を中心にチーム一丸となって戦った池田であったが得点を奪うことはできない。2-0、エスピーダに歓喜の初優勝の瞬間が訪れた。



メンバー全員がよく走り相手ゴールに迫り続けたエスピーダ。ドリブルなどの個人技術も高く、特に人数をかけて相手ボールを奪い、素早く攻撃につなげるところは徹底されていた。見事な優勝であった。一方、惜しくも敗れた池田であったが、選手、ベンチ、指導者、後援会、地域の方々が一体となり、最後まであきらめることなく必死にプレーを続けた姿は見ている者に感動を与えた。十勝郡部の雄として大きな拍手を送りたい。



最後になるが、U10という年代の指導の中で、勝つチームと育つチームの両方を目指し、各地区、各チームの指導者が更に切磋琢磨しながら、今後とも北海道のレベルアップを図ってもらいたい。

(文責 十勝少年サッカー連盟 喜多 進)



